

別表2-1. 薬剤師業務に注目する

| LS | 到達目標 | 日程 | 実習内容 | LS | 課題 | 人員 |
|------|--|-------------------------|--|--|--|----|
| K101 | ①現状の医療システム、医療人としての倫理について概説できる。 ②医療チームの構成や各構成員の役割、連帯と責任体制を説明できる。 | AM 250 | 講義 250名 I 医療チームにおける構成員の役割 様々な医療職種(看護師、栄養士、理学療法士など)現役の方による講演。 II 医療活動における薬剤師の位置づけと役割 チーム医療における薬剤師の役割 現役薬剤師による講演。(ICT、NST、ICU、Painなど) | I K101② 90分 II K102 90分 | | ※4 |
| K102 | ①医療活動の中における、薬剤師の位置づけと役割について概説できる。 ②チーム医療における薬剤師の役割を説明できる。 | 火 PM 60 × 4 | 演習 4教室×60人(6人×10グループ) I 医療人としてのモラルが問われるような実際に起こった「医療事故」「事件」を題材にSGD(30分)プレゼン形式で発表。(3分×10グループ) 共通課題の3グループを統合(30分) 前期にて、「医療倫理」科目との連携・統合 II IIの講演内容を受け、職種の違い、薬剤師の役割、連帯、責任などを題材に、SGD。(40分)プレゼン形式で発表。(5分×10グループ) さらに、教室ごとで結果を統合(40分) 250名での合同発表。(10分×4) 講演者を中心にフィードバック。 | I K101① 60分 II K102 90分 40分 40分 | I 1課題 /Group 3パターン II 講演内容 が課題 | 4 |
| K103 | ①医薬分業の仕組みと意義を概説できる。 | 水 AM 250 | 講義 250人 I ファーマシューティカルケアとは (30分) II 医薬分業の仕組みと意義 (30分) 演習 4教室×60人(6人×10グループ) I II 具体的事例(患者ケア・医薬分業の現状と問題点などについてなど)、SGD。(30分) プレゼン形式で発表。(3分×10グループ)教室ごとに結果を統合(30分) | I II K106① K103 各々 90分 | I 1課題 /Group 3パターン | 4 |
| K106 | ①患者主体の医療業務の中で、薬剤師が行う業務がファーマシューティカルケアの概念に沿ったものであることについて討議する。 ②自分の能力や責任範囲の限界と他の医療従事者との連携について討議する。 | 水 PM 250 | III 医療現場で、個人では対処出来ないような事例を題材に、SGD。(30分) プレゼン形式で発表。(3分×10グループ) さらに、共通課題の3グループを統合(30分) I II IIIの内容について250名での合同発表。(10分×4) | III K106② 90分 30分 40分 | III 1課題 /Group 3パターン | 4 |
| K107 | ①地域における薬剤師の重要性について討議する。 ②在宅医療における薬剤師の役割について討議する。 | 水 AM 250 | 講義 250人 I 地域における薬剤師の重要性 45分 II 在宅医療における薬剤師の役割 45分 現役薬剤師の講演。 演習 4教室×60人(6人×10グループ) I II の講演内容を受け、地域や在宅医療におけるこれからの薬剤師の役割などを題材に、SGD。(50分) | I K107① II K107② 90分 50分 | I II 講演内容 が課題 | 4 |
| K108 | ①実務実習を行う意義、事前実習を行う意義について討議する。 | 水 PM 250 | プレゼン形式で発表。(5分×10グループ)教室ごとで結果を統合、(40分) 250名での合同発表。(5分×4) 講演者を中心にフィードバック。 講義 250人 III 実務実習項目の概略や到達目標を説明(30分) 学生へのアンケート(30分) 到達目標への自己評価(実習前)、意気込みなどを記載。 | 90分 20分 III K108 60分 | | 4 |

別表2-2. 処方箋と調剤

| LS | 到達目標 | 日程 | 学生数 | 実習内容 | | |
|------------|---|----|-------|--|--|--|
| | | | | Aチーム 25名 | Bチーム 25名 | |
| K211 新設 | <ul style="list-style-type: none"> ・代表的な薬剤を自分で使用することができる。 ・処方箋の種類、特徴、必要記載事項および法的位置づけと機能について概説できる。 ・処方オーダーリングシステムを概説できる。 ・代表的な処方箋例の監査における注意点を説明できる。 ・不適切な処方箋の処置について説明できる。 ・代表的な医薬品の用法・用量および投与計画について説明できる。 ・患者に適した剤形を選択できる。 ・患者の特性(新生児、小児、高齢者、妊婦など)に適した用法・用量について説明できる。 ・患者の特性に適した用量を計算できる。 ・病態(腎、肝疾患など)に適した用量設定について説明できる。 ・代表的な処方箋例の監査をシミュレートできる。 ・処方箋例に従って、計数調剤をシミュレートできる。 ・処方箋例に従って、計量調剤をシミュレートできる。 ・調剤された医薬品の監査をシミュレートできる。 ・処方箋の監査の意義、調剤された医薬品の監査の意義とその必要性について討議する。 | 火 | AM | 25名×2 | 講義(30分) 1) 処方箋の種類、特徴、必要記載事項及び法的位置づけと機能(K201) 2) 処方オーダーリングシステムについて(K202) 3) 不適切な処方箋(K203) 4) 患者に適した剤型(嚥下困難者、小児、嘔吐患者など)(K206) 5) 処方鑑査のポイント 調剤実習&処方鑑査(150分)=1項目のみ 1) 錠剤、計数調剤、錠剤鑑別、一包化(60分+30分) <学生6名+学生6名> 2) 散剤(60分+30分)<学生6名> 3) 水剤(60分+30分)<学生6名> 4) 外用剤(60分+30分)<学生6名> 【必要スタッフ数:4名】 | 実習(90分×2)：薬を使ってみる、服用してみる(K211) インスリン注射(デモベン、針、スポンジ、患者指導せん、ビデオ)、吸入薬(ディスクヘラー、ディスクス、エアロゾル、タービューヘイラー、患者指導せん、ビデオ)、点眼薬(生食、点眼びん)、こなぐすり(乳糖)をオブラートに包んで服用する。眼軟膏、点耳液、点鼻液、舌下錠(ラムネ)、口腔内崩壊錠、坐薬(1/2個にカットして使用)、葛根湯エキス剤、カプセル(空カプセル)、経腸栄養剤(アミノレバンEN、エンシュアリキッド) ⇒SGDにて、各薬剤の服用・使用に対するディスカッション(発表なし、レポート提出) 【必要スタッフ数:スタッフ2名(主担当1名+サブ1名)】 |
| PM | | | | | 25名×2 | 調剤実習&処方鑑査(150分)=3項目 1) 錠剤、計数調剤、錠剤鑑別、一包化(60分+30分) <学生6名+学生6名> 2) 散剤(60分+30分)<学生6名> 3) 水剤(60分+30分)<学生6名> 4) 外用剤(60分+30分)<学生6名> 【必要スタッフ数:4名】 |
| | | 水 | AM | 25名×2 | | 実習(90分×2)：薬を使ってみる、服用してみる(K211) インスリン注射(デモベン、針、スポンジ、患者指導せん、ビデオ)、吸入薬(ディスクヘラー、ディスクス、エアロゾル、タービューヘイラー、患者指導せん、ビデオ)、点眼薬(生食、点眼びん)、こなぐすり(乳糖)をオブラートに包んで服用する。眼軟膏、点耳液、点鼻液、舌下錠(ラムネ)、口腔内崩壊錠、坐薬(1/2個にカットして使用)、葛根湯エキス剤、カプセル(空カプセル)、経腸栄養剤(アミノレバンEN、エンシュアリキッド) ⇒SGDにて、各薬剤の服用・使用に対するディスカッション(発表なし、レポート提出) 【必要スタッフ数:スタッフ2名(主担当1名+サブ1名)】 |
| PM | | | | | 25名×2 | 処方解析と処方設計(5名×5G)演習(K201~207) (説明5分+討議30分+発表25分) ・4症例 腎機能低下患者、フェニトイン中毒、小児の投与設計、高齢者の投与設計 【必要スタッフ数:1名】 |
| | 木 | AM | 25名×2 | 調剤実習&処方鑑査(5名×5G)(K209、K210) <昨日の総仕上げ⇒2人組を組んで調剤と鑑査を時間内に行う>(3時間15題程度) ・錠剤、計数調剤、錠剤鑑別、一包化、散剤、水剤、外用剤 【必要スタッフ数2-3名(主担当1名+サブ1-2名)】 | | 処方解析と処方設計(5名×5G)演習(K201~207) (説明5分+討議30分+発表25分) ・1-2症例 腎機能低下患者、妊婦授乳婦の投与設計 【必要スタッフ数:1名】 |
| PM | | | | 25名×2 | 処方解析と処方設計(5名×5G)演習(K201~207) (説明5分+討議30分+発表25分) ・1-2症例 腎機能低下患者、妊婦授乳婦への投与設計 【必要スタッフ数:1名】 | 調剤実習&処方鑑査(5名×5G)(K209、K210) <昨日の総仕上げ⇒2人組を組んで調剤と鑑査を時間内に行う> 3時間15題程度? ・錠剤、計数調剤、錠剤鑑別、一包化、散剤、水剤、外用剤 【必要スタッフ数2-3名(主担当1名+サブ1-2名)】 |
| | 16:00以降 調剤の自由練習 | | | | レポート提出(実習終了後) 1) 調剤の流れと鑑査方法の注意点についてまとめなさい 2) 薬を使ってみての感想と薬剤師としてこれらの薬剤が交付されている患者への服薬指導の留意点をまとめなさい | |

別表2-3. 疑義照会

<<疑義照会の意義と根拠>> <<疑義照会入門>>

※一コマ 90分

| LS | 到達目標 | 日程 | コマ | 学生数 | 実習内容 | 教員 | |
|------|---|----|----|-----|------|--|------------|
| K301 | 疑義照会の意義について、法的根拠を含めて説明できる | 火 | AM | 2 | 50 | 講義(15分 x 1): 疑義照会の意義について/不適切な処方せんとは 演習(30分 x 1): K302について: 形式上不適切な処方せんを渡して SGD(5-6人 x 8-9グループ) 処方箋数: 3枚/グループ=27枚(※)(処方せんは5パターンを組み合わせる) 演習(45分 x 1): K302の発表(5分 x 8-9グループ) 演習(90分 x 1)(サポート人員1名必要): 調剤君の使い方について | 2 (サブ1) |
| K302 | 不適切な処方せん例についてその理由を説明できる | | | | | | |
| K303 | 処方せんの問題点を解決するための薬剤師と医師等医療スタッフとの連携の重要性を討議する | 火 | PM | 3 | 50 | 演習(90分 x 1): 調剤君での演習(サポート人員1名必要)(ミスなしの処方せんを渡す: 1パターン) 講義(30分 x 1): Incidental accident についての例をあげて説明 演習(60分 x 1) K303について: 例題を渡して医療スタッフとの連携などについてSGD(5-6人 x 8-9グループ) 例題数: 1枚/グループ=9枚(※) 4-5パターン 演習(90分 x 1): K303の発表と討議(10分 x 8-9グループ) | 2 (サブ1) |
| K304 | 1. 代表的な医薬品について効能・効果、用法・用量を列挙できる 2. 代表的な医薬品について警告、禁忌、副作用を列挙できる 3. 代表的な医薬品について相互作用を列挙できる 4. 疑義照会の流れを説明できる | 水 | AM | 2 | 50 | 講義(60分 x 1): 効能・効果とは/用法・用量とは/警告とは/禁忌とは/副作用とは/相互作用とは/配合変化とは/健康食品やサプリメントの併用/疑義照会の方法、手段 演習(120分 x 1) K304, 305 について: 処方せん例を渡し、SGD(5-6人 x 8-9グループ)(調べさせる) 処方箋数: 3枚/グループ=27枚(※)(処方せんは各5パターンを組み合わせる) 1. 用法・用量 2. 副作用・禁忌 3. 相互作用・配合変化(午前～午後の実習をする) | 2 |
| K305 | 1. 代表的な配合変化の組み合わせとその理由を説明できる 2. 特定の配合によって生じる医薬品の性状、外観の変化を観察する | | PM | 3 | 50 | 実習および演習(90分 x 1) K305について: 配合変化の体験(2-3種類をローテーションでグループごとに体験) K304, 305 についてSGDのつづき 演習(90分 x 2): K304, K305 の発表と 討議(20分 x 8-9グループ) | 2 |
| K306 | 1. 代表的な医薬品について効能・効果、用法・用量を列挙できる 2. 代表的な医薬品について警告、禁忌、副作用を列挙できる 3. 代表的な医薬品について相互作用を列挙できる 4. 疑義照会をシミュレートできる | 木 | AM | 2 | 50 | 講義(30分 x 1) K612について: 医療スタッフからの質問例とその対応 演習(150分 x 1) K306, K612について: 処方せん例を渡し、処方内容の確認(調べさせる)と、 疑義照会についてのSGD(5-6人 x 8-9グループ)、処方せん数: 3枚/グループ=27枚 (処方せんは9パターン+ミスなし1パターン: 計10パターンを組み合わせる) 各処方せんに対し、医療スタッフからの質問が一つ与えられる。 1. 形式 2. 用法・用量 3. 副作用・禁忌 4. 相互作用・配合変化 5. ミスなし | 2 |
| K612 | 1. 医療スタッフからの薬物に関する質問に対し、適切な資料を使って調べる事ができ、それをフィードバックすることができる。 | | PM | 2 | 50 | 実習(90分 x 2) K306, K612の発表: 疑義照会、医療スタッフへの対応のシミュレーション(20分 x 8-9グループ) (可能であれば教員に実習室以外で待機してもらい、電話を受けてもらう) 各グループの発表ごとに、疑義照会内容について全体討論 | 2 |

別表2-4. 医薬品の管理と供給

<<医薬品の安定性、特殊医薬品>>

| LS | 到達目標 | 日程 | 人数 | 実習内容 | 実習内容 | LS | 課題 | 人員 | | | |
|------------|---|--------------|----|---|--|---|--|---|-------------------------------------|--|---------------------------------|
| K401 | 医薬品管理の意義、必要性について説明できる。 | 火 | AM | 50 | 講義（各々 15分 計140分） I 医薬品管理の意義と必要性 II 麻薬の管理と取り扱い → 事故発生時の対応なども含む。 IV 向精神薬の管理と取り扱い V 血漿分画製剤の管理と取り扱い VI 輸血用血液製剤の管理と取り扱い→MAP,PC,FFP VII 生物製剤、放射性医薬品演習・実技 I Group workの準備。8グループ（6名/グループ）に分割。 | I-VII K401 K403 K404 K405 140分 | I 講義内容が課題 | 1 | | | |
| K402 | 代表的な剤形の安定性、保存性について説明できる。 | | | | | | | | | | |
| K403 | 毒薬、劇薬、麻薬、向精神薬の管理と取り扱い(投薬、廃棄) | | | | | | | | | | |
| K404 | 血漿分画製剤、輸血用血液製剤の管理と取り扱い(投薬、廃棄) | | | | | | | | | | |
| K404 | 生物製剤の管理と取り扱い | PM | 50 | II 7種の特殊製剤の違いについて、グループ毎にディスカッション。(SGD)管理方法、事故時の対応、廃棄届、事故届への記入など、模擬媒体を使用し、実際デモンストレーション | II 7種の特殊製剤の違いについて、グループ毎にディスカッション。(SGD)管理方法、事故時の対応、廃棄届、事故届への記入など、模擬媒体を使用し、実際デモンストレーション | 180分 | | 2 | | | |
| K405 | 放射性医薬品の管理と取り扱い | | | | | 90分 | | メイン1 サブ1 | | | |
| <<製剤化の基礎>> | | | | Aチーム(25名) | | Bチーム(25名) | | | | | |
| K408 | ①院内製剤の意義(知) ②調整上の手続き(知) ③品質管理についての説明(知) | 水 or 木 | AM | 25 | 講義（各々 30分 計60分） I 輸液療法の基礎 II 栄養療法の基礎 | K414① 60分 K414② 120分 | 講義（各々 15分 計30分 実技 I と同時進行） I 無菌調製業務 とは II 配合変化とは 配合変化実例集 | K412① K413① | | 1 | |
| K409 | ①薬局製剤の意義(知) ②調整上の手続き(知) ③品質管理についての説明(知) | | | | 演習（計120分） I TPN処方組み立て、カロリー計算 II 電解質の補正 | | 実技 基礎編 I 無菌操作の準備 手洗い 服装 (OSCE) II シリンジ、バイアル、アンプルの取り扱い (OSCE) III 配合変化を経験してみよう IV クリーンベンチの清拭、片付け (OSCE) | K412② K413② 180分 | II 1パターン /1人 III 2パターン | 3 | |
| K411 | ①代表的な院内製剤の調製(技) ②代表的な消毒薬の用途、使用濃度の説明 ③消毒薬調製時注意点の説明 | | | | PM | | 講義（各々 15分 計30分 実技 I と同時進行） I 無菌調製業務 II 配合変化とは 配合変化実例集 実技 基礎編 I 無菌操作の準備 手洗い 服装 (OSCE) | K412① K413① 演習（計60分） I III 製剤のメリット、デメリット、各自がまとめ、合同発表。 | I II III K408,9 K411③ 100分 | 講義内容が課題 | 1 |
| K412 | ①無菌操作の原理(知) ②基本的な無菌操作の実施(技) ③抗悪性腫瘍剤の取り扱い(技) ハザード回避の基本的な手技(技) | | | | | | II シリンジ、バイアル、アンプルの取り扱い (OSCE) III 配合変化を経験してみよう IV 抗癌剤の調製 V クリーンベンチの清拭、片付け VI 翌日の準備 | K412② K413② 240分 実技（計90分） 2人/1Group I 坐薬(テラージン)を作ってみよう II 消毒薬を作ってみよう | K411① K411③ 140分 | 2種類の作成。 | 2 メイン1 サブ1 |
| K413 | ①注射剤の代表的な配合変化を列挙し、原因を説明。(知) ②代表的な配合変化を検出(技) | 水 or 木 | AM | 25 | 実技 応用編 処方箋を用いて業務の流れも把握。 I 無菌操作の準備 手洗い 服装 (OSCE) II TPN調製 III クリーンベンチの清拭、片付け (OSCE) | K412① K412② K412③ 180分 講義（各々 30分 計30分） I 輸液療法の基礎 II 栄養療法の基礎 演習（計120分） I TPN処方組み立て、カロリー計算 II 電解質の補正 | K414① 60分 K414② 120分 | | 1 | | |
| | | | | | 講義（計20分） I 病院・薬局製剤の意義、調製手続き、品質管理 II 消毒薬の用途と使用濃度 III 院内製剤実例集 | | | | | I II III K408,9 K411③ 100分 実技 応用編 処方箋を用いて業務の流れも把握。 I 無菌操作の準備 手洗い 服装 (OSCE) II TPN調製 III 抗癌剤の調製 VI クリーンベンチの清拭、片付け (OSCE) | K412① K412② K412③ 240分 |
| K414 | ①代表的な輸液と経管栄養の種類と適応を説明。(知) ②体内電解質の過不足の判断、補正 | 水 or 木 | PM | 25 | 演習（計60分） I III 製剤のメリット、デメリット、各自がまとめ合同発表。 | K411① K411③ 140分 実技（計90分） 2人/1Group I 坐薬(テラージン)を作ってみよう II 消毒薬を作ってみよう | | | メイン1 サブ2 | | |

別表2-5. リスクマネジメント

前期授業内容: 実例を挙げて講義する。全4時間

事故事例(調剤過誤、調剤事故、医療事故)

プレアボイド、インシデント・アクシデント、ヒヤリ・ハット

院内感染

副作用の初期症状と検査所見(重大な副作用とその初期症状も含む)

調剤事故発生時の対応

| LS | 到達目標 | 日程 | | 学生数 | 実習内容 |
|------|-------------------------------------|----|-------|---------------------------|--|
| K503 | 院内感染の回避方法について説明できる。 | 火 | AM | 50×5 5つの演習室で SGDと発表 | 院内感染の実例を与え、原因・対策を考える。 |
| K501 | 薬剤師業務の中で起こりやすい事故事例を列挙し、その原因を説明できる。 | | PM | | 事故事例・投薬の誤り・調剤事故などの例を多数与え、PHARM-2Eにしたがって分類し、その対応を検討し、発表する |
| K502 | 誤りを生じやすい投薬例を列挙できる。 | | | | |
| K506 | 誤りを生じやすい調剤例を列挙できる。(態度) | | | | |
| K506 | リスクを回避するための具体策を提案する。(態度) | | | | |
| K504 | 代表的な医薬品の副作用の初期症状と検査所見を具体的に説明できる(講義) | 水 | PM | | 数種の処方箋について、副作用、初期症状、検査所見を調べて発表する。 |
| K505 | 代表的な医薬品の副作用の初期症状と検査所見を具体的に説明できる(演習) | | AM | | 午前の処方箋に対し、患者指導をロールプレイし、かつ、互いに長所・短所を指摘する。 |
| K507 | 事故が起こった場合の対処方法について提案し、シミュレートする。(態度) | 木 | AM/PM | 事故を想定した状況を与え、対応を考え、実際に行う。 | |

別表2-6. 服薬指導と患者情報(コミュニケーション)

| LS | 到達目標 | 日程 | 学生数 | 実習内容 | | | | |
|--|---|--|--|---|-------|-------|--|--|
| K601 K602 K603 K604 K617 | | 火 | AM | 50 医療面接ロールプレイ実習【ファシリテータ(教員)1名】 ・ロールプレイ、フィードバック(90分×2コマ=180分) ・2シナリオ ・コミュニケーションスキルの解説(傾聴、共感的態度ほか) | | | | |
| | | | PM | 50 医療面接SP実習【SP2名、ファシリテータ(教員)1名】 ・コミュニケーショントレーニングのSP実習(2シナリオ); (セッション後、全体討議、SPからのフィードバック) | | | | |
| K601 K602 K603 K604 K617 | <ul style="list-style-type: none"> 患者の基本的権利、自己決定権、インフォームドコンセント、守秘義務などについて具体的に説明できる。 代表的な医薬品の服薬指導上の注意点を列挙できる。 代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を列挙できる。 インフォームドコンセント、守秘義務などに配慮する。 適切な言葉を選び、適切な手順を経て服薬指導する。 医薬品に不安、抵抗感を持つ理由を理解し、それを除く努力をする。 患者接遇に際し、配慮しなければならない注意点を列挙できる。 医療スタッフから薬物に関する質問に対して適切な資料を使って調べることができ、それをフィードバックできる。 共感的態度で患者インタビューを行う。 | 水 | AM | <table border="1"> <tr> <td>学生25名</td> <td>学生25名</td> </tr> <tr> <td>患者インタビュー実習(OSCEに準拠した課題) SPとセッション<1回目> <5分(セッション)+2分(フィードバック)×25セッション=125分+α> 【SP2-3名+ファシリテータ(教員)1名】</td> <td>患者インタビュー実習(OSCEに準拠した課題) SPとセッション<1回目> <5分(セッション)+2分(フィードバック)×25セッション=125分+α> 【SP2-3名+ファシリテータ(教員)1名】</td> </tr> </table> | 学生25名 | 学生25名 | 患者インタビュー実習(OSCEに準拠した課題) SPとセッション<1回目> <5分(セッション)+2分(フィードバック)×25セッション=125分+α> 【SP2-3名+ファシリテータ(教員)1名】 | 患者インタビュー実習(OSCEに準拠した課題) SPとセッション<1回目> <5分(セッション)+2分(フィードバック)×25セッション=125分+α> 【SP2-3名+ファシリテータ(教員)1名】 |
| | | | 学生25名 | 学生25名 | | | | |
| 患者インタビュー実習(OSCEに準拠した課題) SPとセッション<1回目> <5分(セッション)+2分(フィードバック)×25セッション=125分+α> 【SP2-3名+ファシリテータ(教員)1名】 | 患者インタビュー実習(OSCEに準拠した課題) SPとセッション<1回目> <5分(セッション)+2分(フィードバック)×25セッション=125分+α> 【SP2-3名+ファシリテータ(教員)1名】 | | | | | | | |
| PM | <table border="1"> <tr> <td>患者インタビュー実習(OSCEに準拠した課題) SPとセッション<2回目> 1)SGD(60分)5名×5G:「患者と共感的コミュニケーションをとるために薬剤師に何が必要か?」 20分討議+5分発表×5+ファシリテータ解説15分) 2)再度SPとセッション 5分(セッション)+2分(フィードバック)×25セッション=125分+α> 【SP2-3名+ファシリテータ(教員)1名】</td> <td>患者インタビュー実習(OSCEに準拠した課題) SPとセッション<2回目> 1)SGD(60分)5名×5G:「患者と共感的コミュニケーションをとるために薬剤師に何が必要か?」 20分討議+5分発表+ファシリテータ解説15分 2)再度SPとセッション <5分(セッション)+2分(フィードバック)×25セッション=125分+α> 【SP2-3名+ファシリテータ(教員)1名】</td> </tr> </table> | 患者インタビュー実習(OSCEに準拠した課題) SPとセッション<2回目> 1)SGD(60分)5名×5G:「患者と共感的コミュニケーションをとるために薬剤師に何が必要か?」 20分討議+5分発表×5+ファシリテータ解説15分) 2)再度SPとセッション 5分(セッション)+2分(フィードバック)×25セッション=125分+α> 【SP2-3名+ファシリテータ(教員)1名】 | 患者インタビュー実習(OSCEに準拠した課題) SPとセッション<2回目> 1)SGD(60分)5名×5G:「患者と共感的コミュニケーションをとるために薬剤師に何が必要か?」 20分討議+5分発表+ファシリテータ解説15分 2)再度SPとセッション <5分(セッション)+2分(フィードバック)×25セッション=125分+α> 【SP2-3名+ファシリテータ(教員)1名】 | | | | | |
| 患者インタビュー実習(OSCEに準拠した課題) SPとセッション<2回目> 1)SGD(60分)5名×5G:「患者と共感的コミュニケーションをとるために薬剤師に何が必要か?」 20分討議+5分発表×5+ファシリテータ解説15分) 2)再度SPとセッション 5分(セッション)+2分(フィードバック)×25セッション=125分+α> 【SP2-3名+ファシリテータ(教員)1名】 | 患者インタビュー実習(OSCEに準拠した課題) SPとセッション<2回目> 1)SGD(60分)5名×5G:「患者と共感的コミュニケーションをとるために薬剤師に何が必要か?」 20分討議+5分発表+ファシリテータ解説15分 2)再度SPとセッション <5分(セッション)+2分(フィードバック)×25セッション=125分+α> 【SP2-3名+ファシリテータ(教員)1名】 | | | | | | | |
| K601 K602 K603 K604 K612 | <ul style="list-style-type: none"> 患者背景に配慮した服薬指導ができる。 適切な言葉を選び適切な手順を経て服薬指導する。 医薬品に不安、抵抗感を持つ理由を理解し、それを取り除く努力をする。 代表的な症例についての服薬指導の内容を適切に記録できる。 | 木 | AM | SGD(5名×10グループ) 「患者や患者の家族がおかれている状況を理解するには何が必要か。また薬剤師としてどんな点に配慮して患者と接するべきか。1-2日目の実習を通して考えなさい」 討議60分+発表5分×10グループ+α【教員1名】 | | | | |
| | | | PM | 50 【演習1】カルテの読み方、書き方、POS(SOAP)(120分)→前期強化科目へ 講義(30分) 1)ペーパー上でカルテ記載を読む 2)薬歴記載(SOAP)の練習をする<会話文の作成> 3)薬剤師と患者のやりとりのデモビデオをみる⇒この薬剤師の薬歴をSOAP記載するとどうなるか? ⇒1)~3)は前期の講義へ 4)他職種との情報共有の意義を討議(SGD30分)5名×10G+発表5分(50分)=80分 【演習2】代表的な医薬品について適切な服薬指導ができる(K601) グループで、お互いに説明をしあう 1)血糖降下薬、2)降圧薬、3)点眼薬2種類、4)舌下錠、5)吸入薬 【教員1名】 | | | | |